紫波町赤石地区ひづめ館懇話会員がボランティア活動として

樋爪館遺跡めぐりの道案内人を

させて頂いています。ご予約は数日前までに電話で下記に.....

０１９－６７６－３９９９（ 赤石公民館内ひづめ館懇話会事務局 ）
０１９－６７６－５８２２（ 日詰駅前観光案内所 「さくらばな」）

平泉の初代藤原清衡は、後三年の合戦の結果、清原氏の奥六郡を引き継ぎ、平泉の栄華の礎を築きます。藤原氏は海や川の経済的要衝を押さえ、奥州各地から産出された金などをもとに、政治的支配と浄土世界を目指す力としました。その藤原氏による地方統治の拠点が紫波町にあった樋爪館です。「ひづめのたち」というのが当時の言われ方と思われますが、紫波地方ではこれまで「ひづめだて」と読み慣わしてきました。樋爪は、比爪、火爪とも書かれたりします。

鎌倉時代に書かれた「吾妻鏡（あづまかがみ）」という有名な歴史書があります。「東鑑」ともいわれます。この吾妻鏡には、源頼朝の奥州攻めに関して樋爪氏との関わりがいくつか登場します。また南北朝時代に書かれた「尊卑文脈（そんぴぶんみゃく）」には、樋爪氏の祖は、「清衡の４男の清綱」（３男説・５男説あり）であると記されています。清綱は父に当たる経清と同じ宮城県の亘理郡を拠点とし、亘理権十郎を名乗っていました。その長男の俊衡が志波郡を治めることになり、姓を樋爪氏に変えたと言われています。

樋爪俊衡が支配していた１２世紀の志波郡の範囲は、紫波町、矢巾町、盛岡市都南地区だけでなく、厨川舘にもかかわっていたとみられており、盛岡市内の大半が志波郡で樋爪氏の支配下にあったと思われます。俊衡には師衡・兼衡・忠衡の３人の息子がおりましたが、協力して広い郡内の統治に当たっていたはずです。 ↗

↗ 紫波の統治を委ねられた樋爪氏は、自らの居館であり政務の場である樋爪館を造営する際、大規模な土木工事によって巨大な沼（五郎沼）も構築しました。

樋爪館は、平泉は別にして藤原三代に関連する居館の中で、最も規模が大きく、最も重要な「館（立ち）」であったとみなされています。

しかし、残念なことに、この樋爪館も平泉崩壊と運命を共にしなければなりませんでした。 抗しきれないと悟った通爪一族の手によって炎上し、廃墟となってしまったのです。

形あるものは、沼を初めほんの一部です。今となっては、遺跡によって当時を偲ぶ他ありません。

これまでの調査の結果、樋爪館の位置は、現在の赤石小学校や薬師神社を中心とした数㌶の範囲にあったと確認され、小学校の北側から堀跡（現在は町道）が見つかり、東側と西側でも一部見つかっています。本家の平泉は、京を凌ぐほどと言われ、また小京都とも評されました。その分家一族が造営し、支配の要とした樋爪館周辺は、「小平泉」と言ってもおかしくない様相を呈していたと推測されています。≪つづく≫　　―「紫波の歴史は面白い!!（紫波町平泉関連史跡連携協議会発行）」より一部抜粋　―

第27回
定例懇話会

１１月１６日
（水曜日）
午後７時から
紫波町赤石公民館

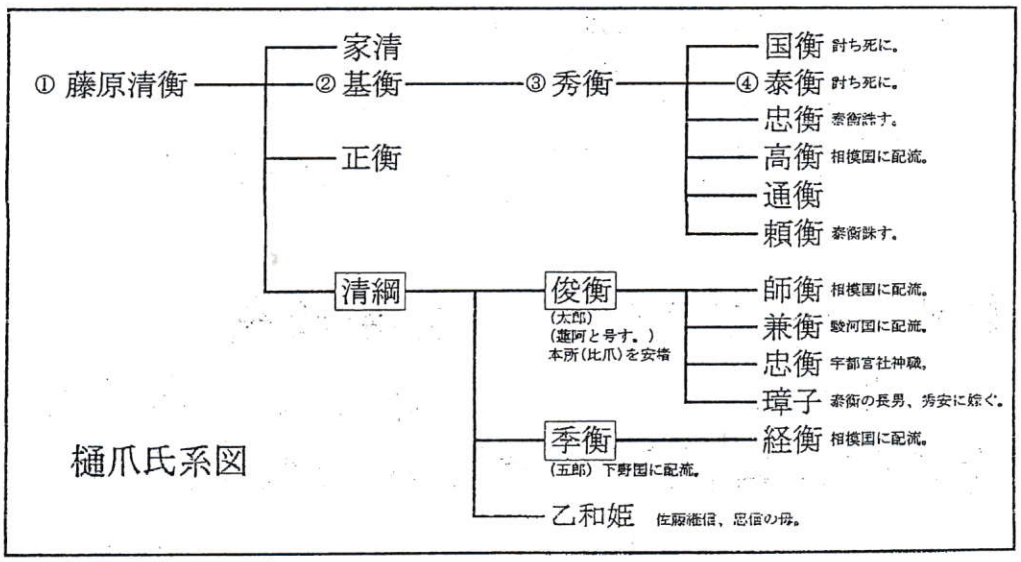
☆毎月第３水曜日に開いています☆
☆お気軽に参加してみてください☆

お問い合わせは、赤石地区ひづめ館懇話会（だてこんわかい）へ
０９０－３１２５－３７７６（高橋）

樋爪館遺跡めぐりの道案内を、赤石地区ひづめ館懇話会の会員がボランティアで行っています。ご希望の方は事前に下記にお申し込みください。

紫波町赤石公民館内 懇話会事務局 ０１９－６７６－３９９９
日詰駅前観光案内所「さくらばな」 ０１９－６７６－５８２２

赤石小学校周辺の紫波町指定史跡「樋爪館跡」は、奥州平泉初代藤原清衡の孫、樋爪俊衡の居館(政庁)と推定されています。そして、この地域は正に「小平泉」と呼ばれるに相応しい繁栄があり、平泉藤原氏の北方交易の重要な拠点であったと考えることもできると言われています。



第28回 月例懇話会は

１２月２１日（水）午後７時から

赤石公民館で開催します。

赤石地区ひづめ館懇話会では、毎月第３水曜日の夜に、会員発表と意見交換等を行っています。会員以外の方も参加してみてください。